下水道管路の全国特別重点調査

下水道維持課　資料３

１　下水道管路の全国特別重点調査と本市の取り組み

埼玉県八潮市の事故を受け、国土交通省が設置した「下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会」において、同種・同類の事故を未然に防ぐために、下水道管路の全国特別重点調査を実施すべきとの提言がとりまとめられたのを受け、国交省が地方公共団体に対して要請した調査。

【八潮市での事故発生以降の本市の取り組み】

①令和７年１月28日　・埼玉県八潮市にて、道路陥没事故発生
②令和7年1月28日から7年2月2日　・本市独自の緊急点検を実施　⇒　異常なし
③令和７年２月3日から3月8日　・本市独自の重点点検を実施　⇒３５箇所の修繕完了
④令和７年3月１８日　・国から全国特別重点調査の要請
⇒令和７年９月１７日に優先箇所分、令和８年４月２１日に２月末までに実施分の調査結果について国が取り纏めて公表

２　概要

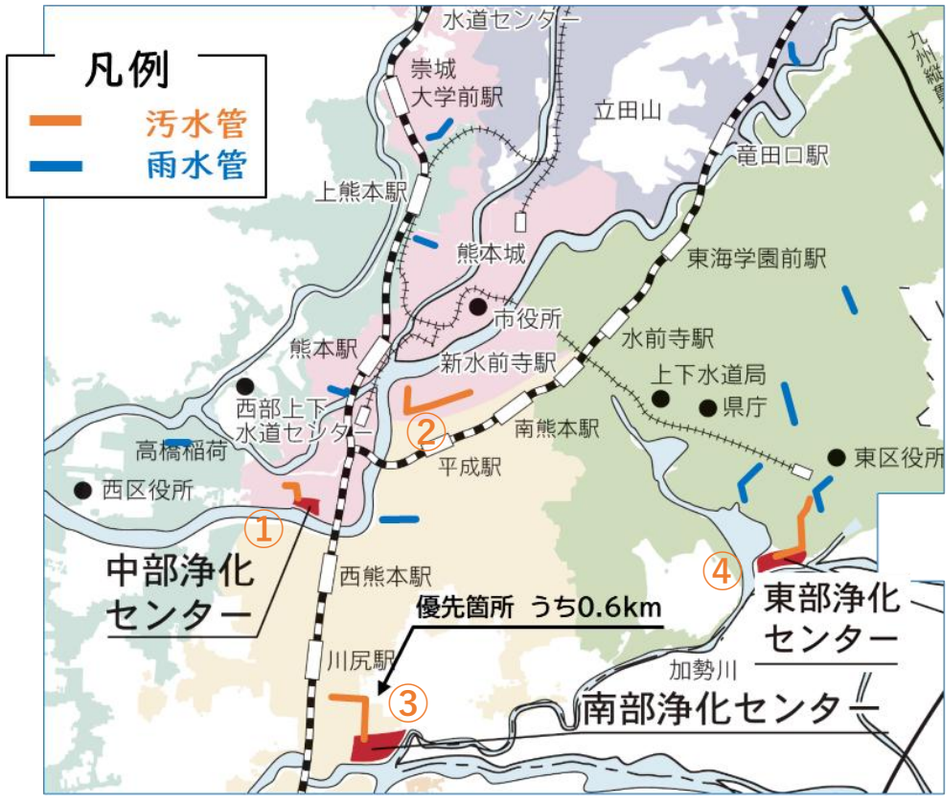
① 内容：潜行目視及びテレビカメラ調査を実施し、管の腐食、上下方向のたるみ、破損等に基づき緊急度※1の判別を行う。　（※１ 緊急度とはその補修等の実施時期を定めるもの）

② 対象：管径２m以上かつ平成６年度以前に設置された（30年以上経過）下水道管路。
そのうち、腐食しやすい箇所（過去の調査で腐食が確認された箇所等※2）については、優先的に実施。
（※2　過去の調査でマンホールの管口付近で「コンクリート表面の荒れ」を１箇所確認）

③ 延長及び優先箇所

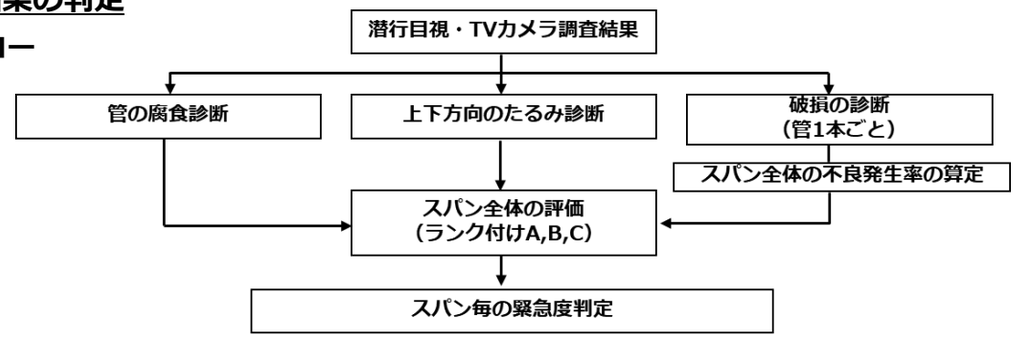
	調査延長	うち優先箇所
汚水管	約6.5㎞	1箇所　約0.6㎞
雨水管	約5.4㎞	なし
合計	約11.9㎞	1箇所　約0.6㎞

３　位置図



４　結果の判定

①フロー



②判定

異常・劣化レベル					緊急度		
区分	判別基準（一部抜粋）				区分	対応	
	管腐食	たるみ	破損				
A（重度）	鉄筋露出	内径の1/4以上	クラック幅等	クラック幅5mm以上	Ⅰ	速やかな対策を実施	路面の空洞調査
B（中度）	骨材露出	〃 1/8以上		〃 2mm以上	Ⅱ	応急措置を実施した上で、5年以内に対策を実施	路面の空洞調査
C（軽度）	表面のあれ	〃 1/8未満		〃 2mm未満	―	状態監視	―

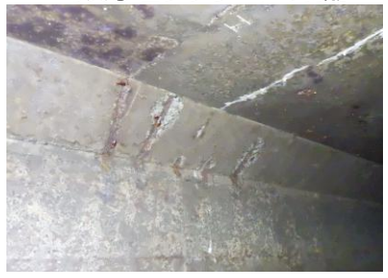
５　実施結果

①汚水管の調査結果【上下水道局実施分】

・管路調査は完了。判定の結果、緊急度Ⅱの延長が約1.1㎞（緊急度Ⅰは無し）
・緊急度Ⅱ箇所は安全性に問題はなく、修繕にて対応（R8～R9にて実施予定）
・路面下空洞調査も完了しており、異常はなし

調査結果 / 調査路線	①管路調査 判定結果 緊急度Ⅰ	緊急度Ⅱ	―	内部の状態	備考	②路面下空洞調査	備考
路線① 延長 約0.4km	該当なし	該当なし	約0.4km	・異常なし	・状態監視を行う	―	―
路線② 延長 約2.6km	〃	約 1.1 km	約1.5km	・コンクリートの一部剥離等	・安全性に問題なし ・修繕を実施中	約 1.1 km	・異常なし
路線 ③ 延長 約1.9km	〃	該当なし	約1.9km	・異常なし	・状態監視を行う	―	―
路線 ④ 延長 約1.6km	〃	〃	約1.6km	〃	〃	―	―
合計 約 6.5 km	〃	約 1.1 km	約 5.4 km				

写真① コンクリートの剥離



写真② コンクリートの剥離

②雨水管の調査結果 【都市建設局実施分】

・１０路線、約5.4ｋｍのうち、9路線約3.9ｋｍの管路調査済
・残り1路線、約1.5ｋｍについても現在調査中
・路面下空洞調査についても一部先行して実施しており、調査結果が出そろい次第とりまとめる